



経営学部 経営学科・大学院経営学研究科

高原 龍二(たかはら りゅうじ) 教授

産業・組織心理学の視点から、「中小企業の働きがい
評価」「ストレスチェックの集団分析」「産業心理職の
コンピテンシー」など実態調査による研究

■ 産業・組織心理学の視点から、企業や地域との共同研究に従事。

産業・組織心理学を専門とする高原教授は、企業や労働組合、地域などの心理的問題を調査や実験によって検証し、改善につなげていくための共同研究に取り組んでいます。これまでに関わってきた研究は、「中小企業の働きがいの評価方法」「ストレスチェックの活用方法」「産業心理職のコンピテンシーのインタビューによる検証」「モノレールにおける適切なトラブル対応のシミュレーション実験」「地域住民の精神的健康調査」などです。

■ 働きがいがある中小企業の審査を通して、適切な働きがいの評価方法を検討。

高原教授は、大阪周辺の働きがいある中小企業を表彰する「学生に知ってほしい働きがいのある企業賞」（主催：一般社団法人大阪府経営合理化協会）の審査委員長として企業の評価に携わっており、どのような方法を用いれば働きがいを適切に評価できるのかを検討し、論文として発表しています。また、新しい賞「学生が選ぶ働きがいのある企業賞」の創設にも関わり、学生審査委員会を組織して企業と学生双方のニーズに応える企業評価の在り方を追究しています。

■ ストレスチェックの集団分析から、職場のメンタルヘルスを支援。

高原教授は、労働安全衛生法に基づいたストレスチェック制度の概要や活用法について研修や講演を通して情報を発信しており、ストレスチェック事業者や企業のストレスチェック担当者へのアドバイスや援助も行っています。具体的にはコロナ禍による従業員のストレスの変化の分析や、ストレスと退職の関連の分析など、組織それぞれの問題意識に応じた集団分析や、その結果に基づいた研修に協力することで職場改善に貢献しています。

■ 産業心理職の知識と技能の向上のために学会や職能団体で活動。

公認心理師法が成立し、新たに心理職の国家資格が生まれたことからもうかがえる通り、心理学を背景とした対人援助は様々な領域で求められています。高原教授は日本産業ストレス学会での活動として産業・労働分野における心理職のコンピテンシー（実践的スキルや姿勢・行動）をまとめた書籍の編集に携わり、インタビューや質問紙調査によるコンピテンシーの有効性の検討にも取り組んでいます。

高原龍二教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<http://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kyoinId=ymdiyyoyggv>

1976年生まれ、兵庫県出身

経歴：大阪大学大学院 人間科学研究科 博士（人間科学）

著書・論文：『産業心理職のコンピテンシー』（共編著2023、川島書店）

『産業・組織心理学TOMORROW』（共編著2020、八千代出版）

『少数の異なる領域の専門家による企業の人的資源管理評価の一貫性と関連指標』（2024年予定、社会心理学研究）

所属学会：日本心理学会、日本産業衛生学会、日本産業ストレス学会（理事、副編集委員長、産業心理職委員）、日本社会心理学会、産業・組織心理学会（副編集委員長）、日本社会医学会、等

職能団体：一般社団法人大阪公認心理師会（設立発起人）、大阪府臨床心理士会

受賞歴：第56回日本社会医学会総会奨励賞（2015）、産業衛生学雑誌 2010年度 優秀論文賞（2011）

<本件に関するお問い合わせ先>

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06 - 6328 - 2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク（プランニング・ポート内） 福嶋、井上 Tel: 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>